

女性の SW（セックスワーカー）に対する予防啓発及び効果評価

研究分担者 塩野 徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）
研究協力者 要 友紀子、宮田りりい、宮階 真紀、畑野とまと（SWASH）
今村 顕史（東京都立駒込病院）

研究要旨

本年度は、女性の現役のセックスワーカーを対象に検査行動の要因を明らかにするべく、初年度に得られた調査結果を詳細に分析した。初年度に実施した調査は、予防啓発に関わりがない A 社が保有するアンケートモニター登録者を対象にしたもので、居住地と年齢で 2 段階化抽出を用いて、成人女性 103,075 人を対象にスクリーニング調査と本調査を実施した。本調査は、5 年以内に相手からお金をもらって性交渉をしたことがある 1,183 人の回答を得た。本年度はこのうち、一番最近のセックスワークの時期が 6 ヶ月以内（26.7%）であった人を対象に、HIV 抗体検査受検経験別に分析した。

スクリーニング調査の結果では、成人女性の 5.6%がセックスワークを経験しており、本調査の対象集団は、先行研究と比較し、働いたことがある場所の割合は変わらないが、やや若年層であった。このうち HIV 感染と回答した人は 2.9%であった。検査行動は 2013 年と比べ 5.7%上昇して 42.6%であり、過去 1 年間の受検割合は全体で 16.7%であった。コロナ禍の影響で検査機会が減少としたと回答した人は 22.1%、受けようと思ったが受けることができなかった人は 12.0%であった。

過去 6 ヶ月以内のセックスワーク経験者に焦点をあて、受検経験別に分析したところ、性風俗の仕事始めてからの期間が長い、過去 6 ヶ月間の相手の人数が多い、過去 6 ヶ月間の仕事での、複数人との性交渉や薬物併用経験を有するなど比較的、感染リスクの高い行動をとっている人において受検割合が高いことが示唆された。また、HIV 抗体検査受検経験がある人では、コンドーム所持割合や購入経験が高いこと、PrEP の認知、U=U の認知、HIV や検査関連の知識の正答数についても高い割合であったこと、過去 6 ヶ月間の対話経験があることなど、知識や周囲の規範が検査行動に影響する可能性があることも示唆された。これらは他の個別施策層でも示された知見と一致しており、今後の予防啓発の取り組みに対して示唆的であると考えられる。

A.研究目的

本研究は、女性の現役のセックスワーカーを対象に質問紙調査を実施した。その結果を分析し、検査行動（定期受検の有無、郵送検査の有無）や予防行動、啓発普及の認知についてベースラインデータを得て、女性のセックスワーカーを取り巻く環境を踏まえ、セックスワークに関するスティグマや HIV 感染症・性感染症に対するスティグ

マの低減を目指し、予防啓発介入の方向性を検討し、訴求力のある啓発資材を作成することを目的としている。

本年度は、初年度に実施した質問紙調査結果について詳細な分析を試み、その結果に基づいて、当事者団体である SWASH と今後の予防啓発の方向性について意見交換を行った。

B.研究方法

質問紙調査の概要は初年度の報告書と同様であるが、以下に再掲する。日本のインターネットサイトを運営する A 社が保有するアンケートモニター登録者を対象にスクリーニングする調査を行い、次いで性行動や検査行動などに関して 2 次調査（以下、本調査）を 2020 年 12 月～2021 年 1 月に実施した。

平成 27 年度国勢調査を基に、47 都道府県と年齢階級によって層化し 20 歳から 59 歳の女性を比例配分し、その割合に基づき A 社保有のモニター登録者のうち成人女性を対象にしてスクリーニング調査を実施する。スクリーニング調査では性別、年齢、居住地、居住期間、居住形態、最終学歴、職業、婚姻状況と性的魅力を感じたことのある相手、および性交経験、「これまでに相手にお金を払って性交渉（セックス）をした経験」「相手からお金をもらって性交渉（セックス）をした経験」、お金をもらった経験については、その時期の 13 問を尋ね、性交相手が異性のみで過去 5 年間ににお金をもらった性交経験がある女性を対象に本調査を実施した。

本調査の質問項目は HIV や性感染症に関する知識や意識、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動、セックスワークに関する意識などを尋ねた。

統計的有意差はカイ 2 乗検定を用いて検討した。有意水準を 5%未満とした。データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 23 (Windows) を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究実施については大阪青山大学研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

C.研究結果

1.調査の概要

調査は 2020 年 12 月～2021 年 1 月に実施した。まず 2 段階層化抽出法により A 社保有のモニター登録者のうち成人女性 125,442 人を対象に依

頼をかけ、同意の得られた 103,075 人にスクリーニング調査を実施した。

このうち、これまでに性行為をした相手と同性的のみと回答した人は 6.2%、同性と異性の両方と回答した人は 1.8%であった。また、これまでに相手にお金を払って性交渉をしたことがある人は 0.9%、これまでに相手からお金をもらって性交渉をしたことがある人は 5.6%であった。さらに、これまでに相手からお金をもらって性交渉をしたことがあると回答した人のうち、その時期について 6 ヶ月以内が 9.3%、6 ヶ月-1 年の間が 3.5%、1 年-3 年の間が 9.5%、3 年-5 年の間が 9.1%、5 年以上前が 68.6%であった。

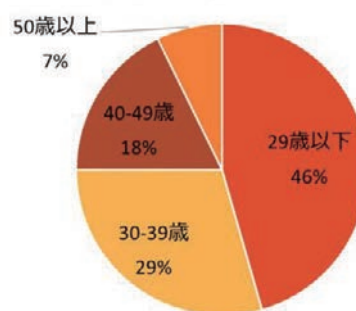
本報告では 6 ヶ月以内に相手からお金をもらって性交渉をしたことがあると回答した人 316 人を分析対象とし、これまでの HIV 抗体検査受検経験別に分析を行った。

2.分析結果

1)基本属性

基本属性については表 1 に示した。年齢層は 29 歳以下が最も多く 45.6% (図 1)、居住形態について独居であると回答した人は全体で 38.0%、既婚割合は 36.1%であった。

図1 年齢層(n=316)



これまで経験したセックスワークの場所や方法は、ちよんの間（旧遊郭）6.6%、ソープランド 25.0%、デリバリー（派遣型）ヘルス 56.6%、店舗型ヘルス 31.3%、ピンクサロン 17.7%、路上等で出会って個人的が 11.1%、インターネットを活用して個人的が 43.0%であった。（図 2）

図2 これまでにどの場所・方法で、性風俗のお仕事をしましたか。(複数回答)



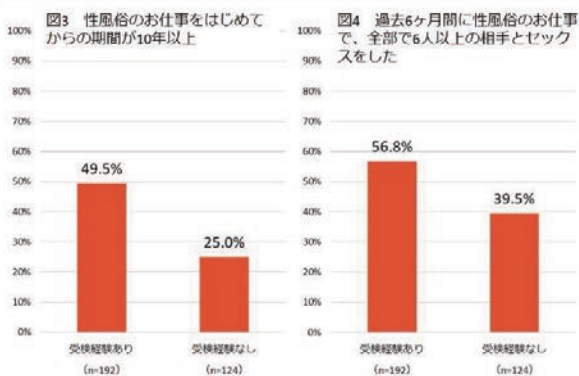
これまでの性感染症既往割合は 69.0%であり、HIV 感染症 3.8%であった。

2)HIV 検査行動に関連する要因

これまでの HIV 抗体検査受検行動別に分析した結果を表 1~表 5 に示した。有意差がみられたのは、性風俗のお仕事を始めてからの期間、過去 6 ヶ月間の相手の人数、過去 6 ヶ月間のお仕事での、複数人との性交経験や薬物併用経験、コンドーム使用に関する行動(常用割合、所持割合、購入経験)、PrEP の認知、U=U の認知、HIV や検査関連の知識、SWASH の活動認知、対話経験であった。

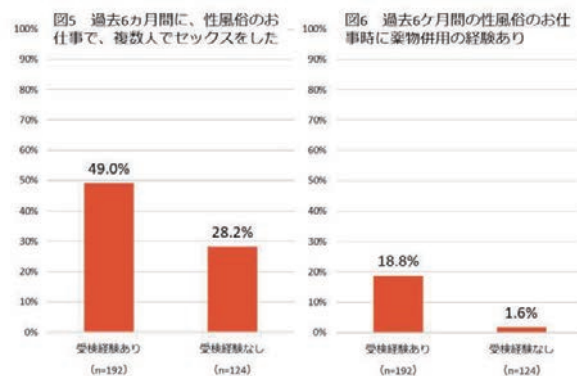
受検経験がある人では、性風俗のお仕事を始めてからの期間が 10 年以上である割合が高く 49.5% (ない人で 25.0%、 $p<0.01$)、過去 6 ヶ月間のお仕事での相手人数が 6 人以上である割合も 56.8% (ない人で 39.5%、 $p<0.01$) と高かった。(図 3,4)

HIV抗体検査受検 経験別分析



また過去 6 ヶ月間の性行動に関して、受検経験がある人では、複数人との性交経験がある割合が高く 49.0% (ない人で 28.2%、 $p<0.01$)、薬物併用経験がある割合も 18.8% (ない人で 1.6%、 $p<0.01$) と高かった。(図 5,6)

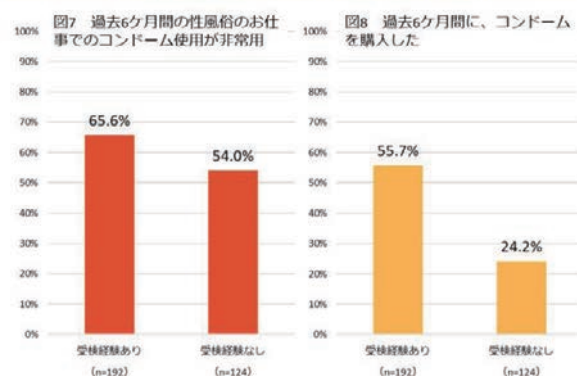
HIV抗体検査受検 経験別分析



一方でコンドーム常用率は受検経験がある人で 34.4%、ない人で 46.0%であり、逆に非常用率にすると 65.6% (ない人で 34.4%、 $p=0.04$) と受検経験がある人の方が高かった。(図 7)

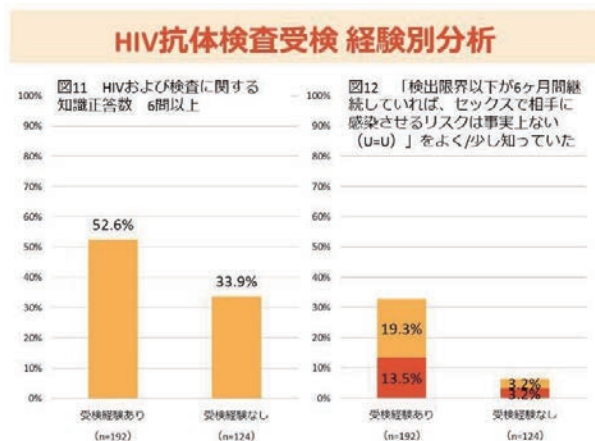
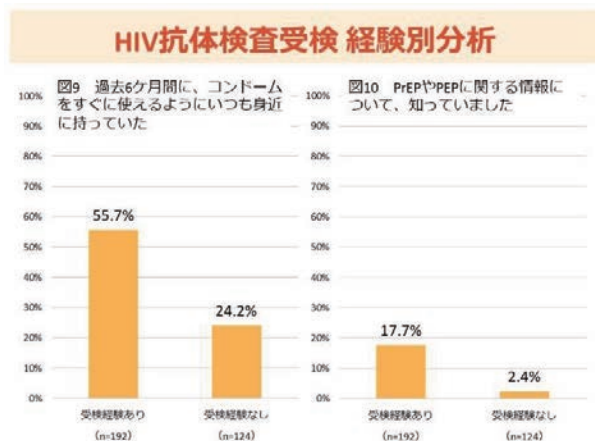
その他予防行動に関して、受検経験がある人では、過去 6 ヶ月間のコンドーム購入経験が 55.7% (ない人で 24.2%、 $p<0.01$)、身近に持っていたのも 55.7% (ない人で 24.2%、 $p<0.01$) であった。(図 8, 9)

HIV抗体検査受検 経験別分析



また受検経験がある人では、PrEP の認知が 17.7% (ない人で 2.4%、 $p<0.01$) と高く、U=U の認知も「よく知っている」「少し知っている」とあわせて 32.8% (ない人で 6.4%、 $p<0.01$) と高かった。HIV や検査関連の知識について先行研究をもとに 12 問を抽出し伺ったところ、受検

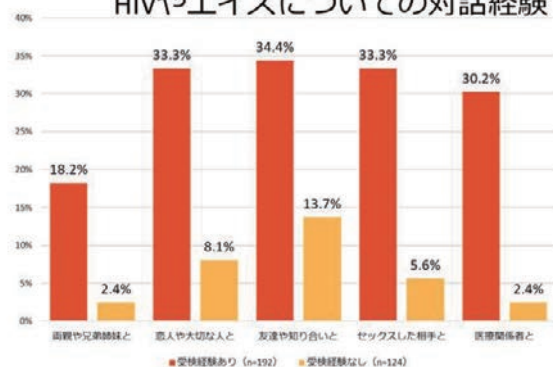
経験がある人で正答数が 6 問以上であった人は 52.6%（ない人で 33.9%、 $p<0.01$ ）と高かった。（図 10, 11, 12）



さらに受検経験がある人では、SWASH の活動認知について「よく知っている」「少し知っている」人は 37.0%（ない人で 5.6%、 $p<0.01$ ）であり、作成が進んでいる「赤い傘」のホームページを見たことがあると回答した人は 20.8%（ない人で 0.8%、 $p<0.01$ ）と高かった。

対話経験について、受検経験がある人では、過去 6 ヶ月間に両親や兄弟姉妹、恋人や大切な人、友達や知り合い、セックスした相手、医療関係者と HIV やエイズについて話したことがある人の割合はいずれも高く、両親や兄弟姉妹、恋人や大切な人とは 18.2%（ない人で 2.4%、 $p<0.01$ ）、友達や知り合いとは 34.4%（ない人で 13.7%、 $p<0.01$ ）、セックスした相手とは 33.3%（ない人で 5.6%、 $p<0.01$ ）、医療関係者とは 30.2%（ない人で 2.4%、 $p<0.01$ ）であった。（図 13）

図13 受検経験別 相手別 過去6ヶ月間の HIVやエイズについての対話経験



4)セックスワークや HIV/性感染症に関する意識
セックスワークに関する意識について、本項目は当事者と検討した内容で先行研究を参照した項目であり、因子分析を行い、4つのカテゴリーに分類することを試みた。受検経験別に有意差がみられたのは、「相手が怒っていたり、不機嫌であれば、性風俗系のお仕事をしている間は、相手の望み通りにする方がよい」「HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなままにしておきたい」といったセックスワークにおける相手側の状況を積極的に考慮した対応と、「コンドームを使わない方が、相手から喜ばれると思う」「コンドームを使わない方が、次も来てくれると思う」といったセックスワークにおけるメリットを意識した対応であった。

3.啓発資材の作成

これまでの調査結果と新型コロナウイルス感染症の動向、女性のセックスワーカーを取り巻く環境を踏まえ、WEB 上での啓発活動に加えて、アウトリーチ体制の構築が必要であると考えた。セックスワークに関するスティグマや HIV 感染症・性感染症に対するスティグマの他、HIV 関連の知識や HIV 抗体検査に関する知識の普及も必要であると当事者間で意見交換し、予防啓発介入の方向性を検討し、手渡しできる啓発資材を作成することになった。

またその際に質問紙調査への誘導を行い、活動の効果評価に加え、本調査の限界を補完でき資料を収集が可能な仕組みを構築した。

図14 受検経験別
セックスワークや性感染症,検査に関する意識①

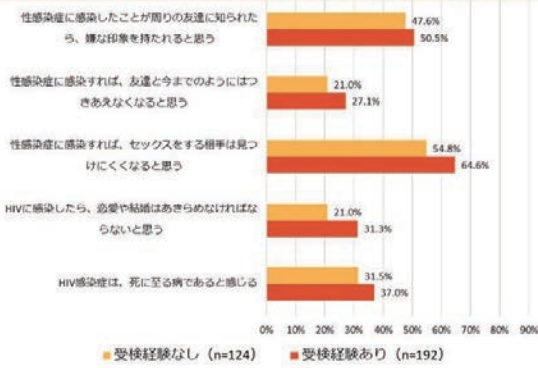


図15 受検経験別
セックスワークや性感染症,検査に関する意識②

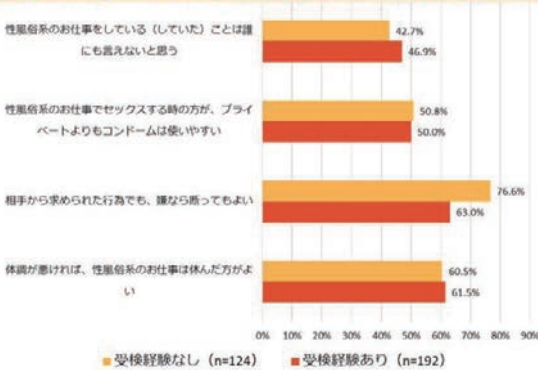


図16 受検経験別
セックスワークや性感染症,検査に関する意識③

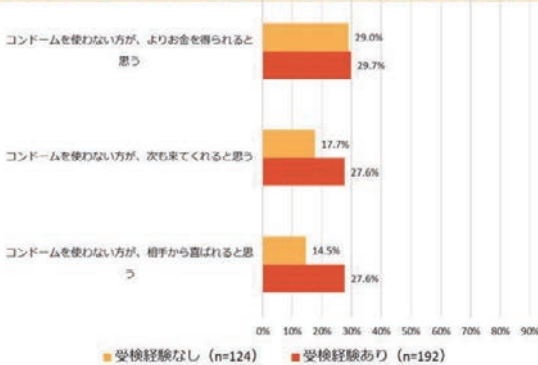
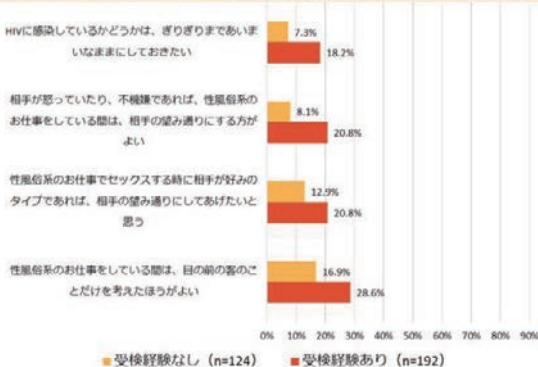


図17 受検経験別
セックスワークや性感染症,検査に関する意識④



D.考察

本研究は 2 段階化抽出により成人女性を対象にスクリーニング調査を実施し、本調査を実施したものである。本研究のスクリーニング調査結果では成人女性のこれまでに相手からお金をもらって性交渉をしたことがある人は 5.6%であった。このうち、31.4%が 5 年以内にセックスワークを経験していた。

全体の平均年齢は 32.6±9.1 歳で、セックスワークを始めた年齢では本調査集団は 23.0±6.3 歳であり、先行研究と比較してやや若い集団であった。一方で、これまでに働いたことのある仕事の種類では、デリバリーヘルスやインターネットを活用して個人的が多く、次いで店舗型ヘルスであり、先行研究と同様の傾向であった。

本調査集団のこれまでの HIV 検査割合は 42.6%であり、先行研究と比べやや上昇していた。また過去 1 年間の受検割合は全体で 16.7%であった。MSM 集団の検査受検割合は 7 割、過去 1 年間で 3 割であるため、この数年で全体の検査行動は上昇しているが、他集団と比較してやや低い割合に留まっていると考えられる。

本調査の分析では、過去 6 ヶ月間以内のセックスワーク経験者を対象に、HIV 抗体検査受検経験別に分析を進め、予防啓発活動に還元するため HIV 抗体検査受検行動の背景を探索した。

受検行動別に分析した結果、有意差がみられたのは、性風俗のお仕事を始めてからの期間、過去 6 ヶ月間の相手の人数、過去 6 ヶ月間のお仕事での、複数人との性交経験や薬物併用経験であり、比較的感染リスクの高い行動をとっている人において受検割合が高いことが示唆された。これは MSM 集団でも同様の傾向であり、調査時点で自発的な受検経験を持っている人は、性感染症や HIV 感染症についてある程度の知識や意識を有していることが考えられる。

同様に HIV 抗体検査受検経験がある人では、コンドーム所持割合や購入経験が高いこと、PrEP の認知、U=U の認知、HIV や検査関連の知識の正答数についても高い割合であったこと

過去 6 ヶ月間の対話経験があることでは、知識や意識が受検行動に結びつくのみならず、周囲の規範が検査行動に影響する可能性があり、セックスワークにおいても先行研究と類似している状況を有することが考えられた。そのため SWASH の活動認知でも有意差はみられたと考えられ、今後さらに訴求可能な対象を広げていくことが必要である。

本研究の限界としては、以下 4 点ある。①調査時期がコロナ禍と重なっており、セックスワークは、その影響を受けている点に留意して解釈する必要がある。②自記式の回答であるため回答の信頼性には限界がある。③母集団は一般成人女性であり 2 段階化抽出法を用いているため、概ね代表性が担保されているが、過去 6 ヶ月の経験に限定すると分析対象者数が少なく、代表性には限界がある。④WEB 上でのモニター参加者を対象とした調査結果であるため、実際に予防啓発に繋がりにくく、モニターに登録していないセックスワークの現状にはあてはめられない。

E. 結論

本研究では集団の偏りや、自記式回答であることなど限界はあるものの、以下のことが明らかとなった。成人女性の 5.6% がセックスワークを経験している可能性があり、MSM 集団とほぼ同程度の規模である。また本調査では、先行研究と比較して、働いたことがある場所の割合は変わらないが、やや若年層を対象とした集団であった。このうち HIV 感染と回答した人は 2.9% であった。

全体では HIV 抗体検査受検行動は 2013 年から比べ、5.7% 上昇して 42.6% であり、過去 1 年間の受検割合は全体で 16.7%、コロナ禍の影響で検査機会が減少としたと回答した人は 22.1%、受けようと思ったが受けることができなかった人は 12.0% であった。

過去 6 ヶ月以内のセックスワーク経験者に焦点をあて、受検経験別に分析したところ、性風俗のお仕事を始めてからの期間が長い、過去 6 ヶ月間の相手の人数が多い、過去 6 ヶ月間のお仕

事での、複数人との性交経験や薬物併用経験を有するなど比較的、感染リスクの高い行動をとっている人において受検割合が高いことが示唆された。また、HIV 抗体検査受検経験がある人では、コンドーム所持割合や購入経験が高いこと、PrEP の認知、U=U の認知、HIV や検査関連の知識の正答数についても高い割合であったこと、過去 6 ヶ月間の対話経験があることなど、知識や周囲の規範が検査行動に影響する可能性があることも示唆された。これらは他の個別施策層でも示された知見と一致しており、今後の予防啓発の取り組みに対して示唆的であると考えられる。

今後は研究の限界で示したようにモニターに登録していない対象者に焦点をあて、実際に持続的な予防啓発につながることをふまえ、アウトリーチ活動を展開できる基盤整備が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代. MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌. 23(1) : 18-25, 2021
- 2) 金子典代, ○塩野徳史 : コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 78-86, 2021.
- 3) Kaneko N , ○ Shiono S, Hill A O, Homma T, Iwahashi K, Tateyama M, & Ichikawa S. Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan. AIDS care. 2020.1-8.
- 4) 金子典代, ○塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太,

健山正男, 市川誠一. 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 21(1):34-44, 2019.

- 5) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理. 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性. 厚生指標, Vol.65 (5) : 35-42, 2018.
- 6) 金子典代, ○塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態 - 2009 年調査と 2012 年調査の比較 -. 日本エイズ学会誌. 19(1) : 16-23, 2017.

2.学会発表

- 1) ○塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. 日本エイズ学会 2021 年 東京
- 2) ○塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. 日本エイズ学会 2020 年 千葉
- 3) ○塩野徳史. MSM におけるセクシュアルヘルス (HIV 検査行動, 新しい知識) に関する現状. 日本エイズ学会 2019 年 熊本
- 4) 宮階真紀, ○塩野徳史, 要友紀子, 宮田りり

い, 松下修三. セックスワーカーにおけるセクシュアルヘルスに関する現状. 日本エイズ学会 2019 年 熊本

- 5) ○塩野徳史. HIV Futures Japan プロジェクトの調査結果から～老後・災害に焦点をあてて～. 共催シンポジウム 1 長期療養時代の医療・行政・コミュニティの協働態勢の構築 日本エイズ学会 2019 年 熊本
- 6) 宮田りりい, ○塩野徳史, 金子典代. MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 日本エイズ学会 2019 年 熊本
- 7) 金子典代, 太田貴, 荒木順子, 岩橋恒太, 石田敏彦, 宮田りりい, ○塩野徳史, 玉城祐貴. コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験, HIV 検査行動, 新しい知識の浸透. 日本エイズ学会 2019 年 熊本

H.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- 1.特許取得
- 2.実用新案登録
- 3.その他
なし

表 1 HIV 抗体検査受検経験別 基本属性

	HIV抗体検査経験				合計		Pearson カイ2乗
	あり n=192		なし n=124		n=316		
年齢層							
29歳以下	72	37.5%	72	58.1%	144	45.6%	<0.01
30-39歳	64	33.3%	29	23.4%	93	29.4%	
40-49歳	42	21.9%	14	11.3%	56	17.7%	
50歳以上	14	7.3%	9	7.3%	23	7.3%	
地域ブロック							
北海道・東北	10	5.2%	14	11.3%	24	7.6%	0.17
関東	84	43.8%	56	45.2%	140	44.3%	
北陸・甲信越	8	4.2%	9	7.3%	17	5.4%	
東海	20	10.4%	14	11.3%	34	10.8%	
近畿	34	17.7%	16	12.9%	50	15.8%	
中国・四国	14	7.3%	8	6.5%	22	7.0%	
九州	22	11.5%	7	5.6%	29	9.2%	
あなたは、現在お住まいの地域にどのくらいの期間住んでいますか。							
1年未満	16	8.3%	16	12.9%	32	10.1%	0.21
1-5年未満	50	26.0%	31	25.0%	81	25.6%	
5-10年未満	26	13.5%	16	12.9%	42	13.3%	
10-20年未満	27	14.1%	26	21.0%	53	16.8%	
20年以上	73	38.0%	35	28.2%	108	34.2%	
あなたは、現在、一人暮らしですか。							
はい(1人暮らし)	83	43.2%	37	29.8%	120	38.0%	0.06
いいえ	108	56.3%	86	69.4%	194	61.4%	
定住している家はない	1	0.5%	1	0.8%	2	0.6%	
あなたの最終学歴をお答えください。							
中学校	15	7.8%	6	4.8%	21	6.6%	0.57
高等学校	61	31.8%	44	35.5%	105	33.2%	
専門学校/短大/高専	40	20.8%	30	24.2%	70	22.2%	
大学/大学院	76	39.6%	44	35.5%	120	38.0%	
あなたの現在の職業として、最も近いのは次のどれですか。							
常勤（正規雇用）	79	41.1%	44	35.5%	123	38.9%	0.29
常勤（非正規雇用）	13	6.8%	7	5.6%	20	6.3%	
パート/アルバイト/フリーランス	71	37.0%	58	46.8%	129	40.8%	
経営者/個人事業主	7	3.6%	1	0.8%	8	2.5%	
働いていない	22	11.5%	14	11.3%	36	11.4%	
あなたは、現在結婚していますか。							
結婚している	74	38.5%	40	32.3%	114	36.1%	0.22
離別・死別	35	18.2%	18	14.5%	53	16.8%	
未婚	83	43.2%	66	53.2%	149	47.2%	
これまでどの場所・方法で、性風俗のお仕事をしましたか。(複数回答)							
ちゃんの間（旧遊郭）	20	10.4%	1	0.8%	21	6.6%	<0.01
ソープランド	69	35.9%	10	8.1%	79	25.0%	
デリバリー（派遣型）ヘルス	121	63.0%	58	46.8%	179	56.6%	<0.01
店舗型ヘルス	76	39.6%	23	18.5%	99	31.3%	
ピンクサロン	47	24.5%	9	7.3%	56	17.7%	<0.01
路上等で出会って個人的に	25	13.0%	10	8.1%	35	11.1%	
インターネットを活用して個人的に	74	38.5%	62	50.0%	136	43.0%	0.04
その他	4	2.1%	5	4.0%	9	2.8%	

表 2 HIV 抗体検査受検経験別 従事期間、過去 6 ヶ月間の性風俗のお仕事、PrEP 認知、性感染症既往

	HIV抗体検査経験				合計		Pearson カイ2乗
	あり n=192		なし n=124		n=316		
性風俗のお仕事を始めてからの期間							
1年以内	14	7.3%	24	19.4%	38	12.0%	<0.01
2年	8	4.2%	13	10.5%	21	6.6%	
3年	14	7.3%	12	9.7%	26	8.2%	
4年	11	5.7%	6	4.8%	17	5.4%	
5年	11	5.7%	8	6.5%	19	6.0%	
6年	13	6.8%	10	8.1%	23	7.3%	
7年	8	4.2%	8	6.5%	16	5.1%	
8年	8	4.2%	5	4.0%	13	4.1%	
9年	10	5.2%	7	5.6%	17	5.4%	
10年以上	95	49.5%	31	25.0%	126	39.9%	
過去6ヶ月間に性風俗のお仕事で、全部で何人の相手とセックスをしましたか。							
0	15	7.8%	8	6.5%	23	7.3%	<0.01
1人	12	6.3%	25	20.2%	37	11.7%	
2人	21	10.9%	11	8.9%	32	10.1%	
3人	16	8.3%	14	11.3%	30	9.5%	
4人	4	2.1%	3	2.4%	7	2.2%	
5人	15	7.8%	14	11.3%	29	9.2%	
6人以上	109	56.8%	49	39.5%	158	50.0%	
過去6ヶ月間に、性風俗のお仕事で、複数人（2人以上）でセックスをしたことがありますか。							
ある	94	49.0%	35	28.2%	129	40.8%	<0.01
ない	98	51.0%	89	71.8%	187	59.2%	
過去6ヶ月間の性風俗のお仕事時の薬物併用経験							
いずれもなし	133	69.3%	119	96.0%	252	79.7%	<0.01
バイアグラのみ	23	12.0%	3	2.4%	26	8.2%	
薬物併用	36	18.8%	2	1.6%	38	12.0%	
過去6ヶ月間に、あなたは性風俗のお仕事で「ホンパン」をしましたか。							
ある	143	74.5%	79	63.7%	222	70.3%	0.04
ない	49	25.5%	45	36.3%	94	29.7%	
過去6ヶ月間の性風俗のお仕事でのコンドーム常用割合							
非常用	126	65.6%	67	54.0%	193	61.1%	0.04
常用	66	34.4%	57	46.0%	123	38.9%	
あなたは過去6ヶ月間に、コンドームを購入したことがありますか。							
ある	107	55.7%	30	24.2%	137	43.4%	<0.01
ない	85	44.3%	94	75.8%	179	56.6%	
あなたは過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるようにいつも身近に持っていましたか。							
いつも身近に持っていた／すぐ使える場所に置いていた	107	55.7%	30	24.2%	137	43.4%	<0.01
時々は身近に持っていた	40	20.8%	32	25.8%	72	22.8%	
まったく身近にはなかった	45	23.4%	62	50.0%	107	33.9%	
PrEPやPEPに関する上記のような情報について、知っていましたか。							
とてもよく知っている	34	17.7%	3	2.4%	37	11.7%	<0.01
具体的には知らないが、聞いたことはある	53	27.6%	18	14.5%	71	22.5%	
まったく知らなかった	105	54.7%	103	83.1%	208	65.8%	
あなたは「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP）」をしたことがありますか。							
過去に飲んだことがある	42	21.9%	1	0.8%	43	13.6%	<0.01
現在飲んでいる	13	6.8%	1	0.8%	14	4.4%	
一度も飲んだことがない	137	71.4%	122	98.4%	259	82.0%	
これまでに性感染症にかかったことがありますか。							
ある	161	83.9%	57	46.0%	218	69.0%	<0.01
ない	31	16.1%	67	54.0%	98	31.0%	

表 3 HIV 抗体検査受検経験別 HIV やエイズに
 ついての過去 6 ヶ月間の対話経験、意識、知識、予防啓発認知

	HIV抗体検査経験				合計		Pearson カイ2乗
	あり n=192		なし n=124		n=316		
過去6ヶ月間の行動を振り返って、あなたは自分自身がHIVに感染している可能性があると思いますか。							
全く可能性はなかった	37	19.3%	30	24.2%	67	21.2%	0.15
あまり可能性はなかった	50	26.0%	34	27.4%	84	26.6%	
どちらとも言えない	60	31.3%	42	33.9%	102	32.3%	
少し可能性があった	29	15.1%	12	9.7%	41	13.0%	
かなり可能性があった	5	2.6%	5	4.0%	10	3.2%	
すでにHIVに感染している	11	5.7%	1	0.8%	12	3.8%	
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか。							
いる	20	10.4%	1	0.8%	21	6.6%	<0.01
いると思う	63	32.8%	10	8.1%	73	23.1%	
いないと思う	62	32.3%	62	50.0%	124	39.2%	
いない	16	8.3%	19	15.3%	35	11.1%	
わからない	31	16.1%	32	25.8%	63	19.9%	
過去6ヶ月間に、両親や兄弟姉妹とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	35	18.2%	3	2.4%	38	12.0%	<0.01
ない	100	52.1%	67	54.0%	167	52.8%	
該当する人はいない	57	29.7%	54	43.5%	111	35.1%	
過去6ヶ月間に、恋人や大切な人とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	64	33.3%	10	8.1%	74	23.4%	<0.01
ない	74	38.5%	58	46.8%	132	41.8%	
該当する人はいない	54	28.1%	56	45.2%	110	34.8%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	66	34.4%	17	13.7%	83	26.3%	<0.01
ない	77	40.1%	56	45.2%	133	42.1%	
該当する人はいない	49	25.5%	51	41.1%	100	31.6%	
過去6ヶ月間に、セックスした相手とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	64	33.3%	7	5.6%	71	22.5%	<0.01
ない	79	41.1%	66	53.2%	145	45.9%	
該当する人はいない	49	25.5%	51	41.1%	100	31.6%	
過去6ヶ月間に、医療関係者とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	58	30.2%	3	2.4%	61	19.3%	<0.01
ない	81	42.2%	66	53.2%	147	46.5%	
該当する人はいない	53	27.6%	55	44.4%	108	34.2%	
あなたはセックスワーカー、性風俗で働く人を対象に予防啓発の取り組みを行っている「SWASH」を知っていますか。							
よく知っている	32	16.7%	1	0.8%	33	10.4%	<0.01
少し知っている	39	20.3%	6	4.8%	45	14.2%	
あまり知らない	22	11.5%	20	16.1%	42	13.3%	
全く知らない	99	51.6%	97	78.2%	196	62.0%	
あなたはSWASHが中心になって運営している「赤い傘」というホームページを知っていますか。また見たことはありますか。							
見たことがある	40	20.8%	1	0.8%	41	13.0%	<0.01
知っているが、見たことはない	39	20.3%	12	9.7%	51	16.1%	
全く知らない	113	58.9%	111	89.5%	224	70.9%	
HIVおよび検査に関する知識正答数							
6問以上	101	52.6%	42	33.9%	143	45.3%	<0.01
5問以下	91	47.4%	82	66.1%	173	54.7%	
「検出限界以下が6ヶ月間継続していれば、セックスで相手に感染させるリスクは事実上ない (U=U) 」を知っていましたか。							
よく知っている	26	13.5%	4	3.2%	30	9.5%	<0.01
少し知っている	37	19.3%	4	3.2%	41	13.0%	
あまり知らない	41	21.4%	21	16.9%	62	19.6%	
全く知らない	88	45.8%	95	76.6%	183	57.9%	

表 4 HIV 抗体検査受検経験別 セックスワークや HIV/性感染症に関する意識①

	HIV抗体検査経験				合計		Pearson カイ2乗
	あり n=192		なし n=124		n=316		
HIV感染症は、死に至る病であると感じる							
とてもそう思う	71	37.0%	39	31.5%	110	34.8%	0.57
ややそう思う	67	34.9%	51	41.1%	118	37.3%	
あまりそう思わない	39	20.3%	22	17.7%	61	19.3%	
全くそう思わない	15	7.8%	12	9.7%	27	8.5%	
HIVに感染したら、恋愛や結婚はあきらめなければならないと思う							
とてもそう思う	60	31.3%	26	21.0%	86	27.2%	0.07
ややそう思う	68	35.4%	42	33.9%	110	34.8%	
あまりそう思わない	48	25.0%	37	29.8%	85	26.9%	
全くそう思わない	16	8.3%	19	15.3%	35	11.1%	
性感染症に感染すれば、セックスをする相手は見つけにくくなると思う							
とてもそう思う	124	64.6%	68	54.8%	192	60.8%	0.13
ややそう思う	45	23.4%	43	34.7%	88	27.8%	
あまりそう思わない	19	9.9%	9	7.3%	28	8.9%	
全くそう思わない	4	2.1%	4	3.2%	8	2.5%	
性感染症に感染すれば、友達と今までのようにはつきあえなくなると思う							
とてもそう思う	52	27.1%	26	21.0%	78	24.7%	0.39
ややそう思う	62	32.3%	36	29.0%	98	31.0%	
あまりそう思わない	48	25.0%	40	32.3%	88	27.8%	
全くそう思わない	30	15.6%	22	17.7%	52	16.5%	
性感染症に感染したことが周りの友達に知られたら、嫌な印象を持たれると思う							
とてもそう思う	97	50.5%	59	47.6%	156	49.4%	0.49
ややそう思う	66	34.4%	42	33.9%	108	34.2%	
あまりそう思わない	15	7.8%	16	12.9%	31	9.8%	
全くそう思わない	14	7.3%	7	5.6%	21	6.6%	
性風俗系のお仕事をしている間は、目の前の客のことだけを考えたほうがよい							
とてもそう思う	55	28.6%	21	16.9%	76	24.1%	0.09
ややそう思う	65	33.9%	43	34.7%	108	34.2%	
あまりそう思わない	42	21.9%	33	26.6%	75	23.7%	
全くそう思わない	30	15.6%	27	21.8%	57	18.0%	
性風俗系のお仕事でセックスする時に相手が好みのタイプであれば、相手の望み通りにしてあげたいと思う							
とてもそう思う	40	20.8%	16	12.9%	56	17.7%	0.21
ややそう思う	67	34.9%	53	42.7%	120	38.0%	
あまりそう思わない	36	18.8%	27	21.8%	63	19.9%	
全くそう思わない	49	25.5%	28	22.6%	77	24.4%	
相手が怒っていたり、不機嫌であれば、性風俗系のお仕事をしている間は、相手の望み通りにする方がよい							
とてもそう思う	40	20.8%	10	8.1%	50	15.8%	0.02
ややそう思う	47	24.5%	36	29.0%	83	26.3%	
あまりそう思わない	46	24.0%	37	29.8%	83	26.3%	
全くそう思わない	59	30.7%	41	33.1%	100	31.6%	
HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなままにしておきたい							
とてもそう思う	35	18.2%	9	7.3%	44	13.9%	0.02
ややそう思う	37	19.3%	29	23.4%	66	20.9%	
あまりそう思わない	58	30.2%	33	26.6%	91	28.8%	
全くそう思わない	62	32.3%	53	42.7%	115	36.4%	

表 5 HIV 抗体検査受検経験別 セックスワーク
や HIV/性感染症に関する意識②

	HIV抗体検査経験				合計		Pearson カイ2乗
	あり n=192		なし n=124		n=316		
コンドームを使わない方が、相手から喜ばれると思う							
とてもそう思う	53	27.6%	18	14.5%	71	22.5%	0.04
ややそう思う	75	39.1%	55	44.4%	130	41.1%	
あまりそう思わない	31	16.1%	21	16.9%	52	16.5%	
全くそう思わない	33	17.2%	30	24.2%	63	19.9%	
コンドームを使わない方が、次も来てくれると思う							
とてもそう思う	53	27.6%	22	17.7%	75	23.7%	0.04
ややそう思う	58	30.2%	44	35.5%	102	32.3%	
あまりそう思わない	48	25.0%	24	19.4%	72	22.8%	
全くそう思わない	33	17.2%	34	27.4%	67	21.2%	
コンドームを使わない方が、よりお金を得られると思う							
とてもそう思う	57	29.7%	36	29.0%	93	29.4%	0.56
ややそう思う	69	35.9%	44	35.5%	113	35.8%	
あまりそう思わない	33	17.2%	16	12.9%	49	15.5%	
全くそう思わない	33	17.2%	28	22.6%	61	19.3%	
体調が悪ければ、性風俗系のお仕事は休んだ方がよい							
とてもそう思う	118	61.5%	75	60.5%	193	61.1%	0.23
ややそう思う	55	28.6%	41	33.1%	96	30.4%	
あまりそう思わない	14	7.3%	3	2.4%	17	5.4%	
全くそう思わない	5	2.6%	5	4.0%	10	3.2%	
相手から求められた行為でも、嫌なら断ってもよい							
とてもそう思う	121	63.0%	95	76.6%	216	68.4%	0.06
ややそう思う	49	25.5%	21	16.9%	70	22.2%	
あまりそう思わない	15	7.8%	7	5.6%	22	7.0%	
全くそう思わない	7	3.6%	1	0.8%	8	2.5%	
性風俗系のお仕事でセックスする時の方が、プライベートよりもコンドームは使いやすい							
とてもそう思う	96	50.0%	63	50.8%	159	50.3%	0.58
ややそう思う	49	25.5%	38	30.6%	87	27.5%	
あまりそう思わない	32	16.7%	15	12.1%	47	14.9%	
全くそう思わない	15	7.8%	8	6.5%	23	7.3%	
性風俗系のお仕事をしている（していた）ことは誰にも言えないと思う							
とてもそう思う	90	46.9%	53	42.7%	143	45.3%	0.58
ややそう思う	51	26.6%	29	23.4%	80	25.3%	
あまりそう思わない	32	16.7%	27	21.8%	59	18.7%	
全くそう思わない	19	9.9%	15	12.1%	34	10.8%	